

年度	平成16～18年度
----	-----------

基本目的 9 行政機能が高くなる

行動目標 9-2 公正で効率的な行政運営を行う

(所管課名 都市整備部営繕工務課)

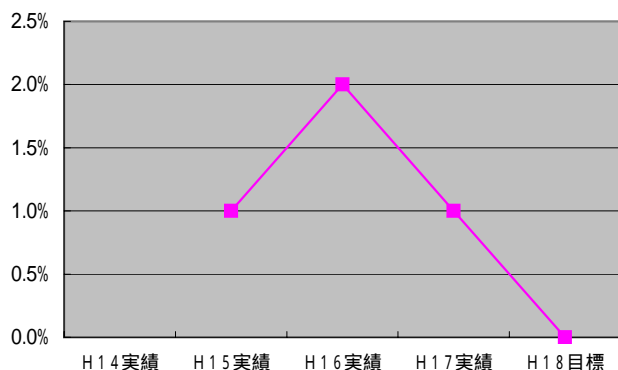
任務	市民に安全で使いやすい公共建築等を提供する
-----------	-----------------------

任務の成果・活動指標の推移

整備施設の不具合率

H14実績	—
H15実績	1%
H16実績	2%
H17実績	1%
H18目標	0%

整備施設の不具合率



指標の説明

前年度に完成した施設を、建築は屋根・外壁・建具・内装など部位ごとや機能面から、電気設備と機械設備も機能面の現地調査や施設管理者に聞き取りを行い、設計上や施工上の不具合を調査し、次年度の設計・施工監理に反映させ、0%を目標とし、安全で使いやすい公共建築物の提供する指標として掲げた。

任務に対する評価

これまでの取組と成果、手段の妥当性

平成16～17年度

安全で使いよさの活動指標として平成16年度に、前年度に整備した施設の現地調査及び施設管理者からの聞き取り実施を行い、不具合が発見された場合、その要因を分析し、今後の設計・現場監理に反映させ、不具合の発生を0%に近づけることを指標として定めた。平成16年度は不具合率2%、平成17年度は1%であった。内容としてはいずれも軽微な不具合であったが、今後も調査結果を設計監理に反映させ、より安全で使いやすい公共建築物の提供に努める。(平成15年度は試験的に調査を行った)

平成18年度

平成18年度も引き続き不具合率を0%に近づける。また、使い勝ってなど聞き取りにより改善すべきものは設計に取り入れ、意見を反映させ、より安全で使いやすい公共建築物の提供をおこなう。

これからの課題、施策等展開の方向性

既存施設の有効活用や長寿命化を図るため、ストックマネジメントの導入やその他の課題に対応できる組織・体制づくりにむけ、関係部課との協議する。また、職員の技量の確保に努めながら、可能な部分について、外部委託を拡大し、施設の維持保全業務への取り組みについて検討する。